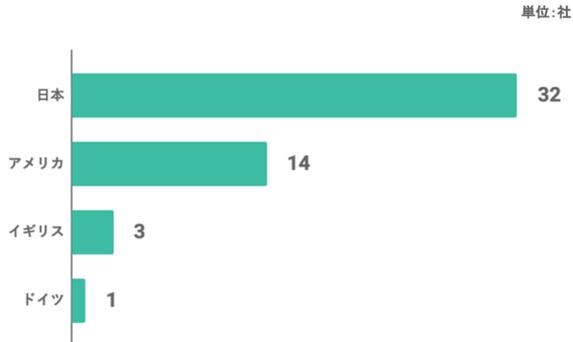


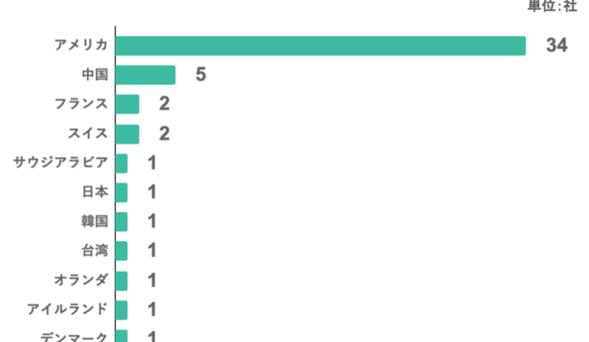
ATTENTION

日本の凋落ぶりが一目でわかる！我々はどうしたらいいのか？

世界時価総額Top50社の国別グラフ（1989年時点）



世界時価総額Top50社の国別グラフ（2022年時点）



このグラフを見てください！左は、バブル絶頂期、日本の企業が、世界時価総額トップ50社のうち、6割以上の32社を占めていたのです。トップは、今はなき日本興業銀行、2位住友銀行、3位富士銀行、4位第一勧業銀行…。今となっては、トヨタを除き、あとは屍のような様相です。そして33年後の現在、米国企業が、逆に60%以上の34社を占めています。（右図）世界時価総額上位5社に4社、アップル、マイクロソフト、アルファベット、アマゾンが入り（残る1社はアラムコ）、日本はたったの1社、トヨタのみです。こんな寂しいことはありません。ここまで凋落するものかと、あらためて人生とはすごいものだと感じ入ってしまいます。これが表すことはどういうことか。日経平均は、33年間で28%下がり、米国株（S&P500）は11倍（11.19倍）になったということです。念のため円/ドルの為替は1989年143.8円、現在は139円、この為替を入れても11倍（10.82倍）です。これは、日経平均に投資していたら、配当を除き、1000万円が720万円になり、米国株に投資していたら、1000万円が1億820万円になっているということです！まさに33年は人生そのもので、人生が変わっていたということです。この資産額は、これから先の人生にも強い影響を与えます！ここで出てくるのが、これから先は分からない、米国は天井かも、という言葉です。しかし、この言葉は10年前、20年前にも聞きました。今、その人はどうでしょう。少しばかりは、このようなデータをよく見て、スタンスを外にも向けるべきでしょう。

COLUMN

仕事を中身濃く、効率よくできる方法

どうしたら時間をうまくコントロールして、目標を達成できるか。その方法を書いたよい本がありましたので紹介しましょう。

まずは、仕事や日々の過ごし方の面で、生産性を上げるために「もっともやるべきことに集中する」。「あれもこれも」は、脳を混乱させ、ストレスを貯める元なのです。だれもが、もっと仕事の生産性を上げて、達成感を持ちたいのですが、不満足で終わっていることが大変多いです。どうしたら達成できるか。そのためには余計なことはしないで、最も大事なことに集中する。そうすると、生産性は30～50%上がるといいます。そのために最も有効な方法を紹介します。

1. 自分にとって最も大事なビジョンを作る
2. そのビジョンに向けて何をやるべきかを具体的に決め、1年の目標（顧客数、売上などの数値も含め）をつくる
3. 毎週末に、やるべきことの週間予定をつくる。
4. それを達成したかどうかを週の終わりにチェックする。

これを実行することで、生産性が上がるだけでなく、何が重要かを明らかにし、自らの成長と達成感をもたらすといえます。あれもこれもやるというクセをなくし、一つのことに集中する。一つのことをやっていて、他のことをやってしまうと、元のことをやる状態に戻るのに23分もかかるということです。だからこそ、最も大事なことに集中しろということです。そうすると、ストレスが少なく、驚くほど効率が上がるとのことです。実は、この本を読む前から、私は1年の目標、週間予定表を作っているのですが、この本を読んでさらにその有効性に確信を深めた次第です。また私は、一日の仕事とその優先順位を書いたメモも毎朝、作っています。 出典：Do What Matters Most

MARKET

| | (8月末) | (7月末比) |
|------|-------------|----------------------|
| 日経平均 | 28,091.53円 | +289.89円 (+1.04%) |
| NYダウ | 31,510.43ドル | -1,334.70ドル (-4.06%) |
| 米ドル | 139.00円 | +5.81円 (+4.36%) |

私の書棚より

福と智、能く斯の二善を修して四恩を抜済し、衆生を利益するときは則ち自利利他の功德を具し、速やかに一切智智の大覚を証す。福と智、二つながらの功德を積み、日常生活の上で受けている目に見える、また目に見えぬ諸々の恩に報じ、いろいろな人の助けをするならば、その人は自己の利益と他人の利益をともに積み重ねたことになり、その結果、仏の完全な知恵を身につけることができる。

-空海『理趣経開運』

日本の凋落が目立つ。もっと危機感を持って！

このところ、日本の凋落を示す兆候が目立っています。いくつか例を挙げてみましょう。

1. 1人当たりGDPはシンガポールや香港がはるかに上で、韓国がすぐ下に迫る。
2. 論文の引用数で日本は過去最低の12位に後退、初めてトップ10から陥落
3. 世界の大学ランクで、日本のトップは23位の東大で、アジアの大学が東大の上に5校ある。
4. 海外に留学する日本人が大幅に減少（2004年の83,000人から2019年62,000人）
5. 特許出願件数は、中国がトップ、日本は3位に後退
6. 日本へのコンテナ船寄港件数が20年間で最低。アジアで中国、韓国が圧倒
7. 半導体では、台湾、韓国に負け、日本は見る影なし
8. 急速な円安で、実質実効為替レートは50年来の安値
9. 個人のお金はどんどん海外にキャピタル・フライト
10. 安倍元首相の暗殺を防げなかったうわべだけの警備

こう見てくると、心寒いばかりです。どうしてこうなったのでしょうか。まず、居心地の良さに安住し、日本全体がゆで蛙の状態になったことがあげられます。生活水準はほとぼりの水準で、無理に頑張らなくてもいいという気持ちで、日本にまん延している感があります。長い間、平和が続き（それ自体はよいのですが）、日本全体がぼけてきたといってもよいでしょう。対外的に俊敏さがなくなり、変な先進国気取りが災いし、プライドは高いが、実際には中国、韓国にも負ける状況を作り出したのです。

いま最も懸念されるべきは、危機感のなさ。問題の先送りが目立つことです。人口減少は加速していますが、これといった対策を打っていません。国の借金は1000兆円を超えましたが、借金を抑える手立てもしていません。若者は日本の居心地がよく、海外に羽ばたくという気概は見えません。企業、役人の不祥事は30年来続いています。頭を下げるのが日常茶飯事になり、まるで連日、録画シーンを見ているようです。他もやっているから怖くないというような雰囲気まで出てきています。また、様々なことが過去の前例に縛られ、仕事をしているふりをしているという状況が強く感じられます。そして、国民の税金の無駄使いが危惧され、役人は予算の分捕り合戦を繰り返して、やったらやっただ、ほったらかし。P(lan)D(o)C(heck)のCがないのです。バケツの底から水がジャージャー漏れている形です。こうして見てくると、まさに日本の沈みゆく姿を見る思いです。国が衰退するのは、こういう形なのかという感を持ちます。

ここは、いまこそ痛みを伴う改革をしないと、日本はだめになるでしょう。既得権益打破、規制の撤廃、財政健全化をやらないと、ますますずぶずぶと沈んで行ってしまいます。また外交・防衛力の強化。これも喫緊の課題です。要は、慢性病にかかったような患者を根本治療し、新陳代謝ができる体質に変えるということです。私は2021年4月のニュースレター（HPからも閲覧できます）で、以下の方策を提案しています。ぜひこちらをご覧ください！

現代版「船中八策」：no144news-letter.pdf (bfsc.jp)

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品をお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者 (RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp